



幞幕1(まんまく)4点  
麻/スクリーンプリント  
H70cm×W275cmが2枚、H70cm×W300cmが2枚  
2013年制作(撮影:小笠原 翔)



布「flower hunting」  
麻/糊型染め、スクリーンプリント等の複合技法  
H300×W240cm  
2013年制作(撮影:倉澤 洋輝)



幞旗(のぼりばた)25点  
麻/糊型染め、スクリーンプリント  
H175×W70cmが25枚  
2013年制作(撮影:倉澤 洋輝)

撮影:倉澤洋輝、小笠原翔

〔展示作品〕  
〈屋外 中庭に幞旗、出入口に幞幕。〉  
〈屋内 各室入口に暖簾。棟方室壁に幞状の作品など。〉

「賞はいらない」とする河井寛次郎の姿勢は、ともすれば芸術の普遍性、作品の永久性を望むことへの戒めです。「時代で生まれ時代で使いきる」この匿名的な潔さに敬意を払いつつ、しかしその功績は「美術」という制度で知ることができないことも一方で了解しなければなりません。工芸館五〇周年を祝いたいと思います。先達の作品を見て考えをたどってみて、なお深く共感できるのは、そのメッセージ「正しく美しいものを日常に」は「日本産のカッコイイものを普通に使いたい」と解釈でき、過ぎ去った価値観ではないからです。カッコよくさりげなく工芸館を祝ってみたいと思います。

AM倉敷、第十一回目の企画。二〇一三年十一月十九日(火)〜二〇一四年一月十九日(日)。幞旗や暖簾などによって大原美術館工芸・東洋館の全体を飾り、開室五〇周年を祝す。